

## 地図が作られた時代背景を知り、常設展を深く楽しむための企画展 「17世紀の日蘭交流 -選ばれし国 おらんだ-」 会期:2023年1月14日(土)~2023年5月14日(日)

ゼンリンミュージアム(福岡県北九州市、館長:佐藤渉)は、2023年1月14日(土)~5月14日(日)まで、17世紀の日本とオランダの交流に焦点を当てた企画展「17世紀の日蘭交流 -選ばれし国 おらんだ-」を開催します。本企画展では、二つの国の出会いから、鎖国体制下でオランダがヨーロッパ唯一の貿易相手国になる過程を紹介します。同時代に描かれた地図を展示する当ミュージアムの常設展を、新たな視点でより深く楽しんでいただくための企画展です。

### ■ 展示概要

日本とオランダの最初の出会いは1600年のことです。アジア貿易において先行していたポルトガルから覇権奪取をもくろむオランダと、戦国時代が終わりを告げ、封建制度の確立と外国との交流を制限することで安定した社会を築こうとしていた日本。両国は、時に対立し時に協調しながら、次第に距離を縮めていきます。そして、江戸幕府が鎖国体制に入る中で、オランダは西洋で唯一日本との国交が認められた“選ばれし国”となったのです。

本企画展では地図や資料など28点を展示し、オランダと日本の立場や思惑の違いに注目しながら、17世紀における日蘭関係の深化を紐解きます。



▲リンスホーテン「東アジア図」  
1595-96年  
ゼンリンミュージアム所蔵

### ■ 企画展のタイトル表記 “おらんだ”に込めた想い

1609年に徳川家康が発行した朱印状により、日本とオランダの貿易が始まりました。その朱印状の冒頭には「おらんだ」の表記があり、新たな貿易相手国に期待を寄せる日本の想いが込められた言葉として、平仮名表記のまま企画展のタイトルに用いました。



▲徳川家康朱印状(複製) 1609年  
平戸市所蔵(原本:オランダ国立文書館)

### ■ 開催概要

会期	2023年1月14日(土) ~ 5月14日(日)
場所	ゼンリンミュージアム 多目的展示室

### ■ 学芸員による企画展ガイドツアー

日時	会期中の平日(休館日を除く)14:00~14:30
参加費	無料

※ガイドツアーの事前予約は不要です。参加人数により、少人数のグループに分けて複数回実施します。

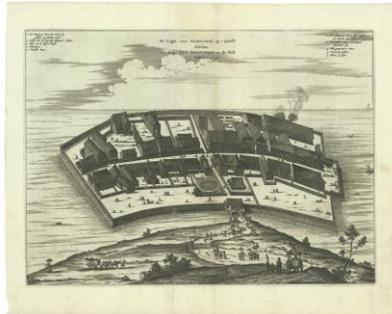
## 【参考資料】

### ■展示品の一例



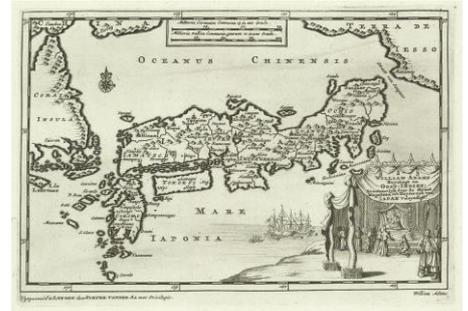
▲カロン『日本大王国志』所収  
「日本図」1663年  
ゼンリンミュージアム所蔵

当時、日本の北辺に関する情報は曖昧であった。本図は、本州北部の新たな知見を示した地図とみられている。



▲オギルビー  
「長崎図」1670年  
ゼンリンミュージアム所蔵

鎖国体制下で西洋への唯一の玄関口となった出島。オランダ人がもたらした学問や技術は日本の近代化の一助となった。



▲ファン・デル・アー  
「日本図」1707年  
ゼンリンミュージアム所蔵

図版の右下には、日蘭の橋渡し役となったウィリアム・アダムズ(三浦按針)が、将軍に謁見する様子が描かれた。

### ■期間限定デザインのチケットホルダー

有料入館者全員に、期間限定デザインのチケットホルダーを配布します。本企画展のチケットホルダーには、日本とオランダを結んだ出島や、オランダ人が独特なタッチで描いた未知の日本文化をデザインモチーフとしてあしらいました。



### ■「ゼンリンミュージアム」について

「歴史を映し出す地図の紹介」をコンセプトに、常設展では全3章にわたる構成で約120点の地図を紹介しています。

#### 【第1章】世界の中の日本

16世紀～19世紀に描かれた地図を中心に、キリスト教の布教による地図の進化と、鎖国体制が地図に与えた影響を紹介

#### 【第2章】伊能図の出現と近代日本

多くの苦難を乗り越え、初の実測図として作られた伊能図が海外へ渡り、その後の日本に与えた影響を紹介

#### 【第3章】名所図会・観光案内図・鳥瞰図の世界

正確さのもとに成り立つ、近代から現代にかけての様々な表現の地図を紹介

開館時間	10:00～17:00(最終入館16:30)
休館日	月曜日(ただし祝日の場合は翌平日) ※この他、年末年始等、臨時に休館することがございます。
入館料	一般1,000円(800円) ※通常の入館料で企画展もご覧いただけます。 ※保護者同伴の小学生以下は無料です。 ※かっこ内は8名以上の団体および障がい者とその同伴の方1名の料金です。 団体料金は事前に予約いただいた場合にのみ適用します。 ※入館料には、パンフレット及びチケットホルダーの代金を含みます。

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、実施内容を変更する場合がございます。最新の情報や当館の感染予防対策については、WEBサイトをご確認ください。(ゼンリンミュージアム <https://www.zenrin.co.jp/museum/>)